「さんか・さろん」ニュース

2019 年 9 月 16 日

「世界都市農業サミット」

妻木里恵さん（練馬区世界都市農業サミット担当課）、斉藤 睦さん（地域総合研究所所長）

左：斉藤さん　　右：妻木さん

今回は「あらためて東京を考えるシリーズ」の 3 回目、都内の農村？！練馬区について学びながら、予定されるサミットについてうかがいました。

練馬区は「農のある豊かな暮らし」ができる都市農業の魅力と可能性を世界に発信するために、11 月 29 日（金）～12 月 1 日（日）に「世界都市農業サミット in 練馬」を開催します。海外からニューヨーク、ロンドン、ジャカルタ、ソウル、トロントの５都市が参加します。

■練馬区の都市農業のここがすごい！

練馬区は人口約 72 万人、23 区で３番目に大きな区、23 区の農地全体の約 40 %を占めています。東京都全体の中でも、八王子、町田、立川に次ぐ４番目の農地面積を有しており、さらに 1ha あたりの収益も東京都の平均が約 300 万円に対して、練馬区は 563 万円。「儲けの出る農業」を行なっています。これは、単に野菜を作るのではなく、「体験農園」や「ねりマルシェ」という催し、「農産物直売所」など付加価値のある農業を実践しているからです。

特産物は「練馬大根」だと思われていますが、実は「キャベツ」です。練馬の農家は市場出荷をあまりせず直売や自家消費が中心ですが、キャベツのみ「練馬のキャベツ」のブランドで組合を作って出荷、学校給食にも出しています。練馬大根は手間暇がかかるので農家の方作りたがりません。役所が頼んで作ってもらっています。「練馬大根引っこ抜き大会」を行い、その翌日に学校給食に出すことで、労力を削減し、小学生には練馬大根を食べる機会を提供、農にも親しむきっかけを作っています。

■「観光農園」と「ねりマルシェ」

東京都内 147 園の観光農園のうち 38 園は練馬区にあります。一番多いのがブルーベリー摘み取り農園。お客様が摘み取るので省力でき、農地を残せる点で区の需要と農業者さんの思いが一致して、増えています。また、練馬区には農産物の直売所が 103 ヶ所あり、直売所マップも作成されています。

「ねりマルシェ」は新鮮で美味しい練馬産農産物やその加工品などを区内の農業者と商業者が直接販売するもので、年間 20 回ほど開かれます。農家は自分たちが作ったものが消費者にどのように受け入れられているかがわかるのでモチベーションが上がり、どのようなものが求められているかのリサーチの場にもなり、生産者と消費者の交流の場として区民に親しまれています。

また「農業体験農園」は練馬区発祥です。これは農業者さんが苗などを用意し、教えながら作物を育成し、収穫するというシステムです。年会費 38,000 円ですが、区民が農業を親しむ機会になると同時に農家の経営安定の助けにもなっています。

■都市農業の多様な機能

居住地が近いので都市農業には色々な機能

があります。例えば、災害時に地域で助け合う重要性を知る、農園の野菜を使った炊き出しなどができる防災機能。学校農園を作ることで、スポーツが不得意の子どもでもでき、人と競わずものを作れる、教育的機能を持たせることもできます。また、福祉作業所や周辺の老人クラブと連携して福祉機能も発揮します。このように、都市農業は単に作物を作って供給するという農業以上の、可能性があるのです。

■世界都市農業サミットのねらい

　このように、練馬区には市民生活と融合する生きた農業があります。住宅地と農地が混在しており、産業としての農業が成り立っているという、世界的にも珍しい環境のおかげです。欧米では住宅地と農地は混在することなく、独立しているのが普通です。今回の「世界都市農業サミット」では、このような練馬の都市農業の魅力を伝え、都市農業のファンを増やして農産物を買ってもらい、農地を増やしていくことを目指しています。また、日本とは展開の仕方が違う都市農業を学ぶことで、自分たちの身近に農地があることの良さと無限大の可能性をさらにわかっていただきたいと思います。

■参加５都市の都市農業の特徴

世界都市農業サミットでは、一般の人も楽しめる「ジャズコンサート」「ワールドマルシェ」「みんな de 農コンテスト」が。また５つの都市から３人ずつの専門家を招き、国際会議（分科会・シンポジウム）も行われます。各都市の都市農業の特徴は次のようなものです。

・ニューヨーク：社会の問題を都市農業で解決。放置された土地が荒れ治安悪化しないようにコミュニティガーデンや農園を作り管理する。

・ロンドン：オリンピックを機に 2012 ヶ所の農園を開設し、現在は 2700 までに増えている。食料戦略（人が等しく食料を手に入れる活動）の一環に位置付け。

・ジャカルタ：急激な都市化に対抗し、環境改善に取り組む。洪水が多く地盤沈下が進むが、ポット栽培中心の現在を、2030 年までに生産緑地 30%増やすことが目標。

・ソウル：法律で「都市農業」が定義され、市民が楽しむ家庭菜園のようなものに行政が力を入れている。福祉団体に貸付。

・トロント：移民対策。都市農業を通じて異文化理解を促進する。民族ごとにコミュニティ農園があり、移民の孤立を防ぎ、水源の管理など新規就農を後押し。

■練馬区の都市農業の課題

　担い手の育成と、農地のかたよりが課題です。「農の学校」を開いて、農業者を支える「ねりま農サポーター」の育成をしていますが、本当に就農したい人を育成するところまではいっていないのが実情です。

　区の東側は住宅地が多く、農地がほとんどありません。農地の大部分は練馬区の西側にかたよっています。「生産緑地 2022 年問題」が目前ですが、農地を残していく取り組みが必要です。

「みなさん、サミットに来て、練馬の素晴らしい都市農業に触れて楽しんでくださいね！」の言葉に、参加者皆が「ぜひ！」と答えたさろんとなりました。（記録：事務局　野口）